

令和４年 山武市議会第２回定例会会議録【抜粋】 (第３日目)

○議長（能勢秋吉君） 以上で12番、並木幹男議員の個人質問を終わります。

次に、８番、石川和久議員の個人質問を許します。

石川和久議員、御登壇願います。

○８番（石川和久君） 議席番号８番、さんむ21、石川でございます。議長にお許しをいただきましたので、一般質問に登壇させていただきます。

市長には、明確な御答弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

まずは、質問に入ります前に、去る４月17日に行われました山武市長選挙におきまして、見事、２期目の当選を果たされました、松下市長に対しまして、心からお祝いを申し上げます。

市長は、この選挙戦では、「この素晴らしい故郷を次世代にしっかり引き継ぎたい!」、サステナブル、これは継続、引き続き、持続可能なという意味でしょうか。「サステナブルさんむ「未来への布石」人・もの・文化が循環する持続可能なまち、山武市を目指す」と掲げ、１期目の実績や今後の取り組む重点施策などを訴え、２期目の当選を果たされました。

市長が目指す、さらなる魅力ある山武市の実現に向けて、私も大いに期待をしているところでございます。これからの御活躍を心から御期待を申し上げます。

それでは、通告に従いまして、順次、質問に入らせていただきます。

はじめに、１期目の実績と課題についてお伺いいたします。

４年前、市長は、継続と開進を旗印に、地域再生、８つの宣言を打ち出し、全ての宣言を人口減少対策につなげるとし、多くの政策を市民とお約束し、１期目の当選を果たし、市政運営に取り組んでまいりました。

当時、市民にお約束した公約については、どうでしょうか。市長の掲げた公約は、市民との契約事項であり、約束事でもございます。仮に努力を重ねても、達成できない場合、様々な理由等がありますが、市民に対しても御説明をすることが必要ではないでしょうか。

１期目では、令和元年の房総半島台風などの災害、新型コロナウイルス感染症などの経験したことのない出来事、様々な対応があり、思うような市政運営ができなかったことと思いますが、４年間、市政運営のかじを取り、政策を行ってこられたわけでございます。

市長御自身でも、４年間を振り返り、よくも悪くも、様々な角度から、自分の政策を分析されてこられたことと思います。

そこで伺いますが、もし１期目の政策評価をされたとすれば、今現在、どのような思いでしょうか。御所見をお伺いします。

○議長（能勢秋吉君） 市長、御登壇願います。

○市長（松下浩明君） 石川和久議員から、市長の公約について御質問いただきました。

1 期目の公約といたしまして、大きく 8 つの政策を掲げ、それらを、第 2 次総合計画において、重点項目として連動させ、行政運営を行ってまいりました。

市長就任後の取り巻く環境と申しますか、思わぬことなどが発生し、大変厳しい中ではありましたが、自分とすると、4 年間で、一生懸命やってきたかと思います。

私が市長に就任して、主な取組でございますけれども、よいことは、あまり伝わっていかずというところもあるのですが、主なものを少し申し上げます。

国際環境認証ブルーフラッグの取得。これは、国内で、同時に 3 番目であったということ。

ゼロカーボンシティへの宣言。これは、千葉県初ですが、将来に向けての政策であるということ。

圏央道山武 P A 設置の決定。これは、将来に向けて、圏央道を使っていただくために、山武市としても、大事に扱っていただけるかなと思います。

令和元年房総半島台風被害の中で、農業復興支援事業も、県内のトップクラスの実績で行っていること。

さんむ医療センターの建て替えも行って、今、進めているところであります。

また、皆様方にもいろいろ御協力をいただき、人口減少策としての企業誘致条例の制定でございます。これは、文化財の調査補助つきということで、千葉県では、やはり、山武市しかございません。国でも、京都でしょうか。京都市が持っているのかなと思います。まして、市といたしますと、こういうものが大事かなという思いで、つけさせていただいております。

また、空き家対策の条例の制定。

松尾小学校の建て替え。

松尾駅前排水整備。

井之内の築山整備。

災害を受ける前、また、受けてからということで、災害協力協定の締結。茨城県の常総市、静岡県の牧之原市、山形県の長井市、また、その前に、東日本大震災後、大船渡市とも協定を結んでいるということでもあります。

コロナの中で、千葉県ペストコントロール協会との協定。

トヨタ勝又グループ、N T T、大塚製薬の健康増進協力協定。

これから、いろいろ問題になってくる、その前に対応しようということで、千葉県司法書士協会との協定の締結も、早めにやっております。

千葉銀行、ちばぎん総合研究所と S D G s 連携協定。

JALや千葉大学、千葉商科大学の学生隊による協力。こういうことも、魅力を発信していくということで、協力をいただいております。

そして、この議会でも、お話が出ましたけれども、蓮沼海浜公園の再整備に向けて、これも動き出させていただきました。

さんぶの森診療所の開設もできました。

地域包括支援センターは、市内3か所にすることができたということ。

東消防署の建て替えも、進んでおります。

市役所の中では、パスポート発券事務の開始。

災害のときの液体ミルクの備蓄。

ひとり親世帯に対しては、分かりやすく応援できるようにということで、「ひとり親家庭への応援ハンドブック」を作成したり、また、「おくやみハンドブック」も作成いたしました。

認知症高齢者の見守りの体制の強化、これは徘徊見守りシールの実施をした。

シルバー人材センターにお願いして、今、広報さんむの全戸配布を行っているところであります。

広報無線によりまして、児童生徒の帰宅時の見守りのお願いなど、少しずつですけれども、できることを、一生懸命やってきたつもりでございます。

その中で、なかなかできないこともありました。それは、1期目のときには、私は市長ではありませんでしたので、こういうものがあつたらいいなということも、正直、リーフレットの中にも入れて、皆様方に提示した経緯があります。

そういったものは、やはり、今のときには合わなかったり、この地域に合わなかったりということもありまして、できていないというところもあります。しかし、やはり、そういう目線も置かないで、少しは持っていることも大事ななと思っております。

とにかく、1期目、4年間、石川議員をはじめ、議員の皆様方に、本当にお世話になって、一生懸命、努めてきたつもりでございます。

その中で、まだまだ、なかなか動かない問題も確かにございます。しかし、2期目に当選をさせていただきましたので、少しでも動くように、全力で対応してまいりたいと考えております。御質問ありがとうございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） ありがとうございます。

継続していた事業など、今、様々な事業をお答えいただき、市長の気持ちが伝わりました。

様々な実績をいただいたわけなんですけれども、なかなかできずにとか、市長ではなかったもので、いろいろと市民の意見の中から出てきた政策等もあつたことと思います。

そういった中で、1期目の今お話しされた中で、もし課題があつて、今後、次の2期目につなげたい、これは、どうしても課題として残ってしまうなどというような内容がありましたら、お聞かせください。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 1期目の公約で、いろいろ取り組んできたということは、今、申し上げたとおりでございます。その中で、どうしても4年間ではできなかったこともございます。

これからやろうということでございますが、まず、一番は、コロナ対策は当然ですが、そういうことではなくて、成東地区に関しましては、成東中学校の建設問題が大きいこと。

そして、成東駅の南口・北口の整備、成東地区の道路整備。山武市は、どこも、皆、そうでございますけれども、やらなければいけないと思っています。

また、松尾地域に関しましては、空港の機能強化に合わせて……。これは、松尾地域と蓮沼地域、あとは、成東の一部ということもございますけれども、市全体で捉えながら、機能強化に合わせて、どうしていくんだというところも残っております。

また、過疎地域の指定ということで、これも時限立法でございますので、しっかりと対応していかなければいけない。

そのほかには、先ほど、小川一馬議員のお話でもありましたけれども、九十九里浜、九十九里海岸を生かした振興策を、しっかりとつくっていかなければいけない。これは、当然、山武市だけではできませんので、地域の皆様方、関連する方々と一緒に協議していきたいと思っています。

その中で、蓮沼海浜公園の整備ということも、これも、もう少ししてからですが、動き始めます。これは、間違いなく動き始めますので、これは、我々が、次の50年をどうつくるかというところなので、大事なことです。特に夏期だけではなくて、通年型での観光などを考えなければいけないということでもあります。

山武地域のほうも、今回の御質問の中で、道路整備が非常に遅れているということ、私も痛感いたしました。そういう問題もある。

また、令和元年の台風災害時の停電と被害の大きさに対しての市として、二度とそういうことがないように、取り組んでいかなければいけないので、そういうことで、再エネなどというものをやっていかなければいけない。

今、大きいことと言うと、地区で分けると、大体、そのようなことをしていかなければいけないということを思っております。

また、細かいことは、きっと、もう少しいろいろあろうと思うんですが、大きいところでは、そういうこと等々でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 課題ということで、私が、前回、質問させていただきましたが、先ほどお話もありました、昨日も櫻田議員からお話もありました、中学校の統合の件と人口減少対策について、細かい政策のお気持ちもお伺いをしようと思ったんですが、大きなその2つということで、聞かせていただければと思います。

昨日、櫻田議員から質問ございました、成東中学校と成東東中学校の統合の件でございます。このことに関して、もう少し具体的にお伺いをしたいと思います。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画により、進められてきた学校統合でございますが、前期計画では残すところ、成東中学校、成東東中学校の統合ということで

まず、現在の成東中学校と成東東中学校の統合の今の計画のスケジュールを教えてください。

通告では、市長ということですが、そのスケジュール的なものなので、よろしければ、部長から答弁をお願いします。

○議長（能勢秋吉君） 教育部長。

○教育部長（小川宏治君） 成東中学校と成東東中学校の前期計画でのスケジュールについての答弁をさせていただきます。

平成28年9月に策定された山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画において、成東中学校と成東東中学校の統合は、「地域性や通学距離の視点、また、今後の生徒数、学級数の推計や成東中学校校舎の老朽化への対応等を総合的に勘案し、2校での統合を検討します。統合年度は、平成35年（令和5年）4月の開校を目指し、検討します。統合後の学校位置は、地域性や通学距離を考慮し、現成東東中学校を学校位置として検討します。」とされております。

このスケジュールどおりにいきますと、現時点では、どういう段階かということでございますが、統合校の開校に向けた準備は、学校統合準備委員会を設置し、2年をかけて行いますことから、令和5年度の開校となりますと、令和2年度に、具体的な開校への課題とその検討について計画する学校統合実施計画を策定し、令和3年度に、学校長や保護者、教職員、地域住民等の代表で構成される学校統合準備委員会を設置し、今年度は、協議の2年目という段階になっていたというところになります。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 今、御説明をいただきました。

現在は、本来であれば、実施計画を進めているというところなんですけれども、昨日の答弁では、市街地にお造りになりたいというような答弁をいただきました。現計画の成東東中学校の場所を利用するのではなく、また、現在の成東中学校を使うのでもなく、新たに成東の市街地に建て替えるということによろしいでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 昨日、櫻田議員からの御質問でお答えしたとおりでございまして、これは、1期目の選挙のときに、私とすると、前期計画では、難しいというような判断をさせていただいたとともに、恐らく、選挙でも、市民の皆様方も、そのような感じであって、投票等に当たったのではないかというように、選挙をしている中で、私は感じました。

しかし、成東中学校の統合や建設という問題は、教育長にも、はっきりと、お考えを全部、お聞きしました。「他の学校と違い、成東中学校の老朽化が一番であり、それへの対応をしっかりとやらなければいけない。」ということで、私もそれを聞いて、承知はしていましたが、改めてそのとおりであるなと思いました。

そのような中、私は4年間、少し延ばしてしまいましたので、成東中学校の耐震や施設の整備につきましては、しっかりとやって、注意を万端にしているところでございます。

やはり、現地を見ますと、もう本当に厳しくなっていることは承知をしておりました。そして、いろいろ考えた中で、櫻田議員のところでも言いましたけれども、将来を見据えて、確かに出生数も随分少なくなっている感じもあるし、今後の児童の推計もあるし、まちづくりもあります。そういう中で、考えた結果、成東中学校と成東東中学校を統合して、それで、新たなところということが、私としては、その方向でいきたいと決まりました。

ただし、場所等につきましては、これは、まだ全然、つかみも何もないところであります。山武市の中央である成東地区の中学校を建てるということは、本当に大事なことです。慎重に進めていきたいと思っております。お答えしたことは、そういうことで、市街地で、新たにということでございます。

以上でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 成東中学校の老朽化の問題は、前計画の策定の段階で、教育長はじめ教育委員会からは、もちろん、説明も受けていますし、今、コロナ禍で、なかなか、お伺いすることはできませんけれども、成東中学校の運動会や卒業式などにも、私もお伺いしたことがあります。そういった中で、老朽化は、本当にすぐにやらなければいけない問題だということは、私も認識はしていたわけでございます。

その中で、市長のほうで、選挙戦が行われたときに、市民の方から意見が非常に多いということで、このように立ち止まったというわけです。

やはり、議会でも、度々質問が出ていますように、私が市民から聞いている話の中では、場所が云々というか、その計画はどうなっているのかを知りたいということを、私は聞かれることが非常に多かったわけでございます。

そして、議会で、度々、今回で3回目でしょうか。質問をさせていただいているのです

が……。市街地にということで、市長の思いもあるんでしょう。

過去の答弁で、市長は、「今後、教育委員会等をはじめ、このことについて協議を重ねていきたい。」と、そのように答弁をされていたわけです。協議を深める、議論を深めていきたい、それでお示ししたいということだったのですが、この今の決断に至るまでに、教育委員会をはじめ教育長と、様々な関係機関と議論はされてきたのかということ、私はお伺いしたいです。できれば、正式な場があれば教えていただきたいですし、どういう形で、教育委員会と協議したのか。新たに建設ということになれば、もちろん、財政課等も関わってくると思います。

そういった様々な機関にわたる中で、協議と議論を深めたのであれば、どういう場で、具体的にどのような内容かということも、分かれば教えてください。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） この問題につきましては、今まで、多くの議員の皆様方から、質問もお受けさせていただきました。

そのときに、その答弁を検討するときには、教育長ともお話をしますし、教育委員会ともお話をします。そういう中で、今後の在り方や進め方ということで、いろいろ聞きながら、先ほど申し上げましたけれども、将来推計もあるし、また、まちづくりのこともあるという中で、私として、判断をしていこうというところで捉えております。

ただ、きちんとしたお話し合いというよりも、状況をしっかりと確認して、そして、私も判断をさせていただき、それをまた改めて教育委員会にお渡しするというところで、恐らく、議会でも、そのようにお話をしていたと思います。

このように、議会で私も、市街地ということでお示しをさせていただきましたので、今後、教育委員会としっかりと協議をしてから、当然、市民の皆様方には、伝えるときが来ましたら、説明もしてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 正式な協議は、教育委員会とはなかったということによろしいですか。

財政課とは、協議はされましたか。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 正式というか、どれが正式かということもあれなんですけれども、いろいろな意味で、新たに建てるようになれば、また、お金がかかります。そういったこともありますが、それで、しっかりと協議をしたということはありません。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 先ほど、スケジュールを聞きましたけど、本来であれば、今、実施計画に入っているときですよ。

議会で、前回、私が質問したときは、まちづくりの中から、新たな場所と用地確保というような答弁で止まっていたと思います。

市民の方は、この一般質問以外で、今、計画が進んでいなければいけない状況の中で、このことについて、知り得ることができるのでしょうか。この議会の中以外に、このような話を、市民の方には話されているのか。そういった会議も踏まえてですけど、なかったのかどうか、もう一度、確認します。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 判断するために、相手のことを聞いたりという雑談的なところでは、多少あるかもしれませんが、しかし、公の場で、きちんと市民の中で、説明するということは、今のところはありません。

ただ、議会の中で、今の現状を話せるところは、議会の質問の中では、いつもお答えをしております。

そして、また、これが、もう少し煮詰まった段階であれば、しっかりとそこは市民の方にお話をしていくべきだと思っていますので、そういうときが来ましたら、説明をする機会をいただきたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 説明するときに来たらということですが、その説明するときに、もう来ていると私は感じているから、この質問をさせていただいているわけです。

これは、その方向性を議会で話したということは、すぐに市民の方に向けて、もう早急に説明をするべきだと思います。その時期というのは、また、教育委員会とお話をされて、準備をしてからということになると思いますが……。

今まで、教育長をはじめ教育委員会が、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画については、平成24年から、山武市学校のあり方検討委員会を立ち上げて、そして、基本計画までつくり上げてきたと思います。もちろん、市民の方の前に出向いて、そして、我々議会にも丁寧に説明をしていただき、進めてきたわけです。

それを変えるわけですから、もちろん、ゼロベースから、また、説明をしていかなければいけない。これは、市長自らが現地に行って、しっかりと説明する必要があると思いますけれども、その辺は、市長はどのように考えているか、お伺いします。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） そのときに来たら、しっかりと説明をさせていただきます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 市長は、選挙で、この計画の反対の声を聞き、立ち止まってということでございます。それは、私たち議会、市民側からしていただくと、声を聞いていただき、非常にありがたい。その気持ちもよく分かります。

しかし、この４年間、この問題について正面から向き合っていたとは、私は、到底思えません。そこに問題があったのかなと思っております。その辺、市長、どうでしょうか。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 市民の代表である議員の皆様方にお話を申し上げながら、進めていると思っております。

そして、今回も、しかるべきときが来たら、しっかりと説明をさせていただくということでお話をしておりますので、１期４年間の間は、そういうことができなかった。

ただ、議会の皆様方には、お話をさせていただきました。

今は、市街地に建てるだけしか、話せることがございませんので、今後、もう少し検討して、せっかくの機でありますので、そういう機をいただきながら、丁寧に説明をしたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○８番（石川和久君） 議会に説明ということで、大変ありがたいお言葉でございます。

ただ、こちらから質問をして、お答えをいただいているというような状況が続いております。これから進めていくことは、大変ではございますが、ぜひ、こういう質問の場で、答えを引き出すということではなく、議員の皆さんに丁寧に御説明をして、教育長と教育委員会と、また、しっかりと市長の方向性に向けて進んでいただければと思います。よろしくお願いします。

次の質問に入ります。大きな課題の一つ、人口減少対策でございます。

山武市の人口は、何人でしょうか。６月１日、４万９,３４１人で行きましょうか。

人口減少、少子高齢化対策については、市長の１期目の柱とも言える取組でございました。令和３年第２回定例会でも、私が質問した際に、細かく数字をいただき、人口推移もお聞きし、お話しさせてもらったのですけれども、成果としては、なかなか現れていなかったのではないかとということをお話させていただきました。

２期目も、全ての取組は人口減少対策につながるというように、お話されておりましたが、果たして、市長は人口増を目指しているのか、現状維持とするのか、減少の速度を鈍化させたいのか、４年後、どこを目指したいのか、そのビジョンと具体的な政策を伺いたいと思います。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） これまで、人口減少に様々な懸念をいたしまして、先ほど、登壇して、話をしたとおり、政策一つ一つをやっていくことが、全て、人口減少対策に当たると私は判断して、やっております。

そして、就任したときには、一番最初に、幹部職員の前で、全ての政策を人口減少対策につなげてもらいたいということで、私はお話をさせていただきました。それが、この全

ての政策がということの言葉の流れでございます。それから、新聞に出て、そのようになったと思っております。

やはり、人口減少対策は、本当に必要であります。しかし、自分とすると、特効薬は、なかなか見つからなかった。ですが、職員の意識も、人口減少対策ということで向けることも必要ですし、そういうことで、お話もさせていただきました。

人口が減るということは、地域の活力が下がってしまうということに、直結するようにも思われますので、2期目も、いろいろな政策を打っていきたいと思っております。

今、人口が減る速度を少しでも遅くしたいなどという方向になりつつあります。やはり、人口減少対策ということは大事でありますので、2期目の政策としても、引き続き、そのように取り組んでまいりたい、これは、また自分に課すこともあるということの言葉でございます。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 人口減少を緩やかなものにしたいというお考えでよろしいでしょうか。増加ではなく、現状維持ではなく、速度を鈍化させたい、そのような形の答弁なのかと聞きました。

市長、1期目の当選の目標は、本当にそこだったのでしょうか。人口減対策といえば、これは、全国的な問題であり、簡単に増やすことは、大変でございます。山武市だけでは、なかなか……。よほどの大胆なものを打ち出していない限りは、厳しいものなのかなと思ひ、見させていただいていただけです。

1期目当選の公約、市民に公約したものというのは、本当に緩やかにするための8つの宣言だったのでしょうか。もう一度お伺いします。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 人口減少対策でございます。市長となつて行うことは、初めてでございますので、とにかく人口をということで、そのように思っておりました。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） 人口減対策、私も、この言葉を、ずっと考えておりました。人口減の対策ということは、増やすのか。はたまた、人口減に対応したまちづくりをしていくのか。様々な意味で、人口減対策という言葉は使われます。もちろん、それは必要です。私も質問をした際に、増やすよりも、高齢化が増えてくる中で、それに対するまちづくりについて、市長はどのような思いをされているのかという質問も、過去にさせていただいております。その中では、市長は、人口減対策ということは、人口を増やす目標でやられていると感じたわけですが。

6月8日でしょうか、千葉日報にお隣の芝山町の記事が出されておりました。人口を、現在の7,000人から7,500人に増やす目標を、マスタープランに掲げるような取組をされる

という記事を目にさせていただきました。このように、目標を持って取り組むということが大事なのかなと、私は思っております。

なぜ、何回もこのような質問を私はしているのかというと、どこを目指しているかと、前回、言わせてもらったのですけれども、なかなか、目標がない中で、抽象的な目標の中で、人口減と言われても、数字も……。

例えばですけれども、人口ビジョン、総合計画で掲げた、令和47年の四千六百数名でしたか。それよりも、さらに鈍化させるなどという目標があって、取り組まれているのであれば、様々な形で、私も、市民の皆さんも、市長の1期目の政策評価ということができたのかなと思っているわけでございます。それで、このような質問をさせていただいております。

2期目も、もちろん、人口減ということで取り組んでいかれると思うので、それは増やすということではなく、どちらかというと、人口減に対応したまちづくり、そちらの割合のほうが強いと感じますけれども、ここに割合などと言ったら、本当におかしい話ですけれども、その辺を、もう一度、市長のお気持ちをお聞かせください。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 芝山町のことを例に挙げておっしゃってくれましたけれども、大体、7,500人にしたいということの記事だった気がします。

山武市が合併したときには、6万人弱ということでありまして、1万人ぐらいが減ってきているという中で、市を見ますと、人口が減ってくると、振興というか、地域の力みたいなものが弱まってくるということは、本当に痛感をしております。

また、過疎地域というか、山武市は広いので、その中でも、市民生活のレベルは、当然、維持していかなければいけないというところがあって、なかなか、その辺をどうするかというところでもございました。とにかく、人口が減るのを少しでも抑えたいというように思っております。

ただ、総武本線など、この近隣を見ますと、やはり、どうしても、山武市が、その割合が高いです。これはどうしてかと、本当に思っているのですけれども、なかなか、その答えは、見つからないところがあったりしております。

しかし、そういう中で、いろいろな取組をしながら、進めていきたい。そして、市のPRもしながら、地域の活性を図っていきたいというところで、1期目は、駆け足のように進んできたわけでございます。

そして、そういった取組を職員とともに進めてまいりましたが、国立社会保障・人口問題研究所のものを見ても、人口がまだ減っていくというところにあります。しかし、いろいろ進めてきたことを、これからもつなげていくことが必要であるということも、当然でございます。

また、新たなまちづくりをするときには、ある意味、少しそういったことをまとめていかなければいけないところもあるかもしれないかなというような……。まだ、なかなか、その辺も自分で整理はできないところがありますが、市を見ながら、しっかりと、今ある、今やっていることを進めながら、また、考え、進めていきたいと考えております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○8番（石川和久君） ありがとうございました。

人口増という、なかなか、お言葉が重いというか、出てきませんでしたので、1期目の公約の中で、私は、それを柱だと、それだけの熱意を感じていたところでございますが、非常に残念でございます。分かりました。

質問を飛ばします。

次に、重点施策について伺います。

市長は、本定例会の冒頭において、14項目にわたる重点施策を表明されましたが、これらの施策は、市長の目指す山武市将来像には、極めて重要な政策であると認識しております。

また、昨日の質問でも、多くの質問がありましたので、私からは、行財政改革の抜本的な見直しについて伺います。

本定例会初日の全員協議会では、（仮称）政策調整監を設置をするということの御説明をいただきました。

そこで、副市長からは、行財政改革の抜本的な見直しに必要だということで強調されていまして、現在の行財政運営の見直し等は、一体どうされるということなのか、どこら辺りに問題があり、どうしていきたいのか、お伺いしたいと思います。

○議長（能勢秋吉君） 市長。

○市長（松下浩明君） 現在の行財政改革に関する御質問でございます。

今後、さらに、厳しい財政事情が見込まれるというように思っております。

その中ですが、市民の皆様にお約束をした政策も進めていかなければいけない。そして、また、複雑化・多様化する行政需要に的確に対応するため、今まで実施してきた取組をさらに強化してまいらなければいけないと考えております。

そのようなことから、一つとして、今まで以上に財源を確保する取組、また、事務事業の見直しも、少しやっていかなければいけない。公の施設の見直しを行いまして、そういう中で、財を生み出す改革を進めなければいけないだろうと思います。

2つ目として、職員が、意欲や能力を発揮できて、そして、組織の向上につながる人材の育成、要するに、職員の育成をしっかりとしていきたい。

3つ目として、事務の効率化を図って、市民サービスの向上を目指す自治体DXは、取り組んでいかなければいけない。足腰の強い持続可能な行政運営ができる体制をしっかりと

とつくっていく。

これが、私のこれからの４年間、しっかりと取り組んでいくものになろうかと思っております。

○議長（能勢秋吉君） 石川議員。

○８番（石川和久君） ありがとうございました。

今現在でも取り組まれていることに対して、さらにより一層、ふんどしを締め直さなければいけないというような内容だったのかなと思います。

本日は、いろいろと市長に質問をさせていただき、いろいろお話をさせていただき、私のほうでも、しっかりと御協力しながら、また、市長の市政運営に少しでも役に立てるように、日々、努力してまいります。どうもありがとうございました。

○議長（能勢秋吉君） 以上で８番、石川和久議員の個人質問を終わります。